

金属加工 キリシマ精工

精密金属加工のキリシマ精工（鹿児島県霧島市）が力を入れているのは、2018年に発売した歯の裏側に装着する歯列矯正器具だ。高精度の切削技術で薄く丸みを帯びた形状に加工した。鋳造などで作られる従来製品に比べ装着しやすく、装着時の違和感が少ないなど負担軽減が図れるという。

ミドル企業

きらり

半導体・電子部品関連から医療機器分野へと事業領域を広げている同社は、06年に創業した。「かつて勤務していた企業が倒産した後に、当時の仲間から一緒に働く会社を作ってほしいと声をかけられて起業した」（西重保社長）

スタート時に保有していたのは譲り受けたマシン

切削の技、歯列矯正器具に ■医療分野拡大めざす



独自の加工技術で複雑な形状の部品を微細加工できる

ニングセンター（MC）5台。複雑な加工ができての装置を導入する資金的な余裕がないなかで「今ある機械だけでできることは何か」と考え抜いて生み出したのが、現在の同社を支える「カーブカット工法」と名付けた独自技術だった。

通常は複数の工程が必要な加工作業を、MCだけの1工程のみで加工するというものだ。加工する素材を装置に固定する治具を工夫することで、様々な形状の加工品を削り出すことに成功した。

西重社長は「治具には神経をとがらせており、それぞれの製品にどんな治具が必要か、絶えず社内ミーティングを重ねている」と打ち明ける。

カーブカット工法の最大の強みは、1工程で済むため、納期の短縮が図られる。設計図を渡さ

【会社概要】
 鹿児島県霧島市
 独自の加工技術を使った金属部品の精密加工
 2006年
 53人
 5億円
 （2019年9月期）

- ▽本事業概要
- ▽創業
- ▽従業員数
- ▽売上高

れ、秘密保持契約を結んで加工するケースも増えている」（同）と手応えを感じている。

歯列矯正器具開発のきっかけも展示会への出展だった。キリシマ精工の技術を見た福岡市の矯正歯科医から「私のアタマの中にあるものを実際に作ってくれないか」と要請され、5年がかりでの共同開発につながった。

現在も半導体・電子部品関連の金属部品の受託加工が主力だが、歯列矯正器具の開発の過程で医療機器製造業の登録も取得。受注に波のある半導体関連から医療用に軸足を移そうとしている。

視線の先に見据えるのは、高精度の加工技術が必要な手術用器具などの分野。「最終的には自分たちの製品を出せればと考えている」（同）。目標として掲げる「霧島から世界へ！メード・イン・キリシマ」に向けた一歩が踏み出せるか。

（鹿児島支局長）

久保田泰司